

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム	No.08 冬の森を楽しもう No.18 木工クラフト体験
---------	----------------------------------

学校名	学校法人日吉学園 とさ自由学校
学年・生徒数	12名 (小学1・2・3年生)
実施場所	佐川町内 「いちとじゅう」周辺の森
目標	「環境にやさしい」ものづくりとは？ 佐川町で「地球に優しい林業と地球に還るものづくり」をしている「いちとじゅう」と一緒に、ものづくりをとおして「土のありがたみ」や「森や木々の果たす重要性」について気づく。
講師	村澤友輔、村澤ちなつ (いちとじゅう)
準備物	児童…水筒、帽子 学校…ブルーシート、救急バック、絵の具、筆、カメラ 講師…木工用の木や枝葉、ダンボール

実施項目	樹木や植物の観察、作品づくり
対象プログラム	No.08 冬の森を楽しもう No.18 木工クラフト体験
所要時間	樹木や植物の観察 60分程度 作品づくりと講話 60分程度
実施内容	<p>・森の散策</p> <p>佐川町内の山林で、樹木や植物を観察しながら午後に予定している木工作品づくりの材料を収集した。歩きながら、講師が木や植物の名前や特徴などを伝えた。また、シダの葉を飛ばしたり、冬イチゴを採って食べるなど自然の恵みを体感した。</p> <p>散策した場所は講師が間伐作業を行った山林で、重機で林道を切り開いた話など山の仕事についても学んだ。</p> <p>・昼食、休憩</p> <p>林道の途中で昼食休憩をとった。児童らは、当日の朝に学校で作ったおにぎりを持参していた。木の切り株を椅子代わりにしたり、木の枝を荷物掛けに使ったり、児童らはそこにある木を上手に利用していた。</p> <p>食後は、森の中を元気にかけまわっておにごっこなどをする子もいれば、詩を書いている子もあり、それぞれの個性を活かして森の中での時間を有意義に過ごした。</p> <p>・木工クラフト</p> <p>講師のアトリエ近くの裏山に移動し、屋外で木工クラフト「トナカイの顔づくり」を行った。</p> <p>講師が事前に土台となる木を用意しており、その木に午前中に採取した木の</p>

枝や葉（モミ、杉、笹、シダ、ムラサキシキブなど）を耳や角にみたてて差し込み、目や鼻などは絵の具で描いた。それぞれに特徴のある作品が完成した。

最後に、講師から「学校の校舎や机は何でできていますか？」と質問し、児童らは「木」と答えた。講師は、身近なものに木が活用されているが、その木が育つために土と水と太陽が必要であることなどなど、森や土のありがたさ、自然の大切さを伝えた。

実施風景



補足 その他、プログラムの 特徴

- ・子どもたちは植物の名前をよく知っていた。日頃の学習が活かされていた。
- ・植物採取については、講師が事前に地主の許可を取得した。
- ・とさ自由学校はこの他にも、年間を通して間伐と製材、森林と防災、自然のものを使った調理体験、海的环境学習、木質バイオマス施設見学など、さまざまな環境学習に取り組んでいる。自然のなかでの体験学習を通して、児童の個性、自主性、自主性等を重視した授業を行っている。また、学年別ではなく、児童が取り組みたいことを話し合い、異年齢が複合的に関わるクラス編成で学習している。